

対抗駅伝で火花 全日本マスターズを10月に再開

2023年の幕が開いた。今年は卯年、元気に“跳ね”て健康をアピールしたいもの。暮れの12月18日には全日本マスターズ駅伝の第35回大会が行われた。都県対抗とあって熱のこもった声援が飛び交うなか、各チームの走者は懸命にタスキ・リレーをした。そして朗報だ。23年の今年秋、全日本マスターズ陸上競技選手権が10月に山口県で開催されることが決まった。まさにいいお年玉といえる。

写真／阪田八恵子さん

第44回全日本マスターズ 10月7日から3日間

2019年の第40回大会からコロナ禍で3年間、開かれなかった全日本マスターズ陸上競技選手権が4年ぶりに再開される。会場は山口県の維新みらいふスタジアム。開催期日は10月7～9日で、9日は月曜日だが、スポーツの日で祝日だ。

久しぶりの全日本選手権とあって、会員みなさんにとっては待ちわびた大会だろう。好記録が期待される。

全日本マスターズ駅伝 優勝は男子・新潟A、女子・東京C

第35回全日本マスターズ駅伝競走大会は12月18日、東京・国営昭和記念公園で行われ、男子14チーム、女子9チームが参加して熱戦を繰り広げた。

男子は2区と4区でトップに躍り出した新潟Aチームが、1時間23分54秒で1位に輝いた(表1)。新潟Aを追った東京Aが3秒及ばず2位、3位は愛知だった。

女子は東京Cが断トツの強さを発揮した。1区の谷真美さんがただ1人、20分を切る19分59秒で走ると、2～5区までそれぞれ区間1位で完全勝利を果たした。東京Cは1時間36分49秒で栄冠を獲得し、2位は1時間43分24秒の東京D、3位は岩手と続いた。

阪田八恵子さん(85歳・京都) W85・3000mWで 会心の日本記録更新

強い。競歩のマスターズ(熟達)にぴったりの人だ。右ページに掲載されている『2022年シーズン日本記録更新選手』に女子の部のW85・3000mW 25分59秒83 阪田八恵子とある(表

2)。

その阪田さんが11月6日にあった京都マスターズ秋季記録会で、25分45秒67となる前記録を上回るタイムを出したのだ。前記録は京都の秋季記録会より前に大阪であった近畿マスターズ選手権で出したもの。つまり阪田さんは2022年シーズンで日本新記録を2回出したことになる。

近畿マスターズ選手権でマークした記録は、それまでの34分34秒03を大幅に書き換えたものだが、それより勝っているのが先述した京都秋季記録会でのタイムだ。阪田さんは現在85歳だが、81歳でW80クラスの3000mWで25分18秒63を、76歳のときにW75クラスの5000mWで40分17秒66を出している。塗り替えられた日本記録もあるが、2012年75歳のときの、第33回全日本マスターズ選手権のW75・3000mWで23分02秒31、

表1 全日本マスターズ駅伝競走大会結果(上位3チーム)

※上段が通過記録、下段が区間記録

	順位	チーム名	総合記録	1区	2区	3区	4区	5区
				岩崎和広	岩崎照儀	松宮祐行	朝賀勇也	山岸広海
男子	1	新潟A	1時間23分54秒	5) 18分35秒 5) 18分35秒	1) 35分45秒 2) 17分10秒	3) 52分41秒 4) 16分56秒	1) 1時間08分00秒 1) 15分19秒	1) 1時間23分54秒 5) 15分54秒
	2	東京A	1時間23分57秒	4) 18分34秒 4) 18分34秒	2) 36分00秒 3) 17分26秒	1) 52分37秒 2) 16分37秒	2) 1時間08分33秒 3) 15分56秒	2) 1時間23分57秒 2) 15分24秒
	3	愛知	1時間23分59秒	3) 18分25秒 3) 18分25秒	3) 36分05秒 4) 17分40秒	2) 52分39秒 1) 16分34秒	3) 1時間08分35秒 4) 15分56秒	3) 1時間23分59秒 1) 15分24秒
				磯間浩幸	青山大志	大熊啓史	田邊秀斗	大橋秀星
				藤城 健	中野哲也	近藤直樹	大塚良軌	酒井 一
	順位	チーム名	総合記録	1区	2区	3区	4区	5区
				谷 真美	新城かおり	廣瀬光子	綾部しのぶ	野永美咲
女子	1	東京C	1時間36分49秒	1) 19分59秒 1) 19分59秒	1) 40分16秒 1) 20分17秒	1) 59分14秒 1) 18分58秒	1) 1時間17分59秒 1) 18分45秒	1) 1時間36分49秒 1) 18分50秒
	2	東京D	1時間43分24秒	2) 21分27秒 2) 21分27秒	2) 42分16秒 3) 20分49秒	2) 1時間02分27秒 4) 20分11秒	2) 1時間22分31秒 4) 20分04秒	2) 1時間43分24秒 5) 20分53秒
	3	岩手	1時間44分12秒	4) 22分32秒 4) 22分32秒	3) 43分18秒 2) 20分46秒	3) 1時間03分54秒 5) 20分36秒	3) 1時間23分35秒 3) 19分41秒	3) 1時間44分12秒 4) 20分37秒
				菅原初江	渡村恵子	後藤恵美子	笛田実果子	飯田夏生
				赤坂玲子	児玉由美	柴田真由美	工藤亜樹子	庄司夏子

11月6日に行われた京都マスターズでW85・3000mWの日本記録をさらに更新した阪田さん(左)と、本明洋さん(41歳・京都)



また、翌年の大阪マスターズ選手権のW75・5000mWで40分17秒66、さらに、18年10月に奈良市であった国際ゴールドマスターズ奈良大会のW80・3000mWで25分18秒台の日本記録をそれぞれ持っている。

阪田さんを指導したのは同じ京都府に住んでいた中道伸さん。中道さんといえば日本競歩界で鳴らした人で、古くは20000mWで1時間35分46秒2の日本記録をつくっている。すでに故人になっているが、マスターズ陸上においても、現在に残っている日本記録がある。

3000mWでは手動計時でのM60をはじめ、M75、80、85クラスの20分38秒34(85歳・1914年)まで。5000mWではM70～85までの4クラスに日本記録が残り、最後のM85の記録は同じ85歳で出した35分11秒82となっている。

この中道さんが阪田さんに声を掛けた。「あなたが競歩をしたら、必ず記録を出せる」と。この一言が阪田さんが競歩をするきっかけになったのだ。

それまでの阪田さんは、陸上とは無縁だった。60代で中学校の運動会に足を運んだときに、知人から「あなたも走ってみない。マスターズは年齢に関係なく、だれでも参加できるの」と誘われ、運動会で刺激を受けた阪田さんは「面白そうだ」とマスターズに入会した。

W60、65クラス時代は短距離で記録を残した。69歳の06年の京都マスターズ選手権ではW65・100m18秒97(−1.6)、200m40秒79(−0.9)。

表2 2022年シーズン日本記録更新選手

女子					
種目	クラス	記録	選手名／年齢		登録県
60m	W30	7秒62(+0.1)	世古 和／30		三重
60m	W45	7秒86(+1.3)	酒井あおい／47		愛知
60m	W55	8秒29(+1.7)	宮田 直美／57		茨城
100m	W35	12秒48(−1.0)	野村 有香／35		福井
100m	W45	12秒53(+0.5)	酒井あおい／48		愛知
100m	W55	13秒23(+1.4)	宮田 直美／57		茨城
200m	W-24	24秒95(−2.3)	松林 玲佳／24		高知
200m	W30	25秒11(+0.2)	谷崎 仁美／33		三重
200m	W45	26秒22(+1.2)	酒井あおい／48		愛知
200m	W55	28秒11(−0.3)	熊取谷信子／56		大阪
200m	W90	53秒35(−0.2)	斎藤恵美子／91		東京
400m	W-24	56秒28	木下 慶乃／20		愛知
400m	W30	56秒93	谷崎 仁美／33		三重
400m	W55	1分05秒37	堀部奈津子／56		愛媛
400m	W90	2分12秒71	斎藤恵美子／91		東京
1500m	W45	4分54秒49	坂川真由美／45		愛知
1500m	W55	5分05秒61	新城かおり／55		東京
100mH	W-24	15秒25(+1.0)	堀部 舞／24		愛媛
100mH	W30	14秒00(+1.5)	世古 和／31		三重
100mH	W35	13秒43(+1.1)	野村 有香／35		福井
400mH	W30	1分01秒40	世古 和／31		三重
2000mSC	W60	8分40秒05	末吉真規子／60		石川
3000mW	W30	16分23秒64	玉山 由佳／34		岩手
3000mW	W80	22分42秒00	松本 初枝／80		千葉
3000mW	W85	25分59秒83	阪田八恵子／85		京都
4×100mR	W-24	49秒09	古井／38、松林／24、小白方／18、杉本／23		高知
4×100mR	W25	49秒01	田中／26、瓜生田／28、西／28、足立／26		大分
4×100mR	W30	49秒52	堤真／33、堀扶／33、谷崎／33、世古／31		三重
走高跳	W45	1m65	福本 幸／45		大阪
走高跳	W50	1m45	釜 純子／50		愛知
走高跳	W60	1m28	轟木 理恵／60		佐賀
棒高跳	W40	2m81	上野 渚／40		三重
立五段跳	W-24	12m08	松林 玲佳／24		高知
立五段跳	W35	13m40	野村 有香／35		福井
立五段跳	W40	12m36	高畑 志野／43		長野
立五段跳	W55	11m28	宮田 直美／57		茨城
立五段跳	W70	11m14	大日向暁子／72		長野
立五段跳	W85	7m34	馬淵 弘子／86		大阪
重量投	W25	10m83	富沢 美香／28		千葉
五種競技	W70	3124	高橋理恵子／71		北海道
投てき五種	W25	2269	富沢 美香／28		千葉
投てき五種	W60	3644	高橋 節子／62		千葉
投てき五種	W85	2942	福田 外枝／85		石川

(室内記録)

女子					
種目	クラス	記録	選手名／年齢		登録県
棒高跳	W35	3m00	村瀬 真紀／38		徳島

※男子記録は1月号掲載。漢字は新字。記録は11月22日時点。

このうち200mは京都記録として登録され、05年のW65・100m17秒79と、06年のW70・200m38秒32でも京都記録に名を連ねた。

阪田さんは短距離で全日本マスターズ選手権にも出ている。10年に東京・国立競技場であったレースに73歳でスタートラインに立った阪田さん、W70・60m10秒94(−0.8)、200m40秒65(±0.0)の6位と3位になったレースが思い出と話す。60代のときに『シニアの星』として短距離に取

り組んでいる阪田さんの姿をNHKが取りあげ、テレビで放映されたこともある実力者だった。

競歩に移行してから、18年の第39回全日本マスターズ鳥取大会のW80・3000mWで26分30秒49で歩き、1位。競歩でも力を開花させた。

今秋に山口県で開かれることが決まった全日本マスターズ選手権にも「必ず参加します。W85クラスの3000m、5000mの記録を目指して頑張ります」と、喜びと決意を語っている。